

愛知県
浅野デンタルアート
浅野正司

教養課程

演題

「CAD/CAM と共に歩む歯科技工」

専門課程

演題

「CAD/CAM 補綴物製作に必要な、歯科技工士の知識と技術」

抄録

CAD/CAM を利用した補綴物製作が一般に知られるようになってから、10年以上の月日が経過している。その後 IT 産業の発展と共にマテリアルを含むシステムの目覚ましい進化は、世界規模で、年々加速度を増しているように感じられる。

わが国でも多くの CAD/CAM メーカーからバージョンアップも含め最新のシステムがリリースされており、近年では補綴物製作の一翼を担うとの認識も深まっているところである。特に本年度から CAD/CAM 冠が一部保険導入されたこともあり、一層身近なものになってきている。

また、各社システムのオープン化が進んでおり、補綴様式によるシステムの選択度が広がり、使用感の向上が期待できる状況が進んでいる。

システムの進化と共に、マテリアルの種類も飛躍的に増えているが、審美補綴治療では CAD/CAM の使用が一般的になった当初のアルミナから、ジルコニアにその中心は移ってきている。これはジルコニアの優れた物性、術者取り扱いやすさと共に、昨今の貴金属価格の高騰も少なからず影響を与えていると考えられる。

これらの事から CAD/CAM システムによるジルコニアクラウンやブリッジの需要は今後も右肩上がりに伸びていくことが予想される。

しかし、使用されるマテリアルの特異性や、CAD/CAM 製作方法の理解不足が原因と思われる破折や破損などの事故も少なからず報告されている。

最新のシステムの紹介と共に、責任ある補綴物の製作には歯科技工士知識と技術が不可欠であることが解ってきている。

技工物製作前準備段階から、フレームのデザインや調製方法などの注意点、焼き付けから研磨までの一連の手順を検証し、近未来の CAD/CAM 技工物の製作方法を考えてみたい。